政治經濟講演會速記 第六輯

昭和八年二月二十四日 講演

「テクノクラシー」に就て

No. 1

Technocracy

一、序言
二、テクノクラシーの意味、
三、沿革、
四、機械化と失業問題、
五、エネルギーに就て、
六、價格料金の問題
七、批判一束

10×20

國政研究會

8. 2. 9000

7114

注意事項
○資料は大切に扱いましょう。
○資料は転貸借はお断りします。
○15日間の期限に必ず返して下さい。
○資料を汚損または紛失した時は同一の資料又は相当代価を弁償していただきます。
群馬県立図書館
前橋市日吉町一丁目14-8
電話（0272）㉛3008番

テクノクラシーに就て

武智文治

(一) 序言

それではテクノクラシーに付て極く概略だけを申上げます。テクノクラシーに付ては大分今日本語の本も出て居るやうでありますし、方々でお聞きになったことゝ思ひますので、餘り細かしいことは申上げませぬで、今度はそれを鳥瞰的に極く概略だけ、ざっとお骨組

みになつて居るかと云ふことを申上げました、を鳥瞰的に述べる。細かいことは若し後でお質問でもありましたならば私の知つて居る限りお答へしようと思ひます。

テクノクラシーは近頃の極く新しい話でありますので、本も相當出て居りますけれども日本へ來て居るのはまだ餘り澤山ありませぬし、又それ等を見ましても大抵同じやうなことだけしか書いてありませぬので、どの本を何冊讀んだからどれだけ違つたことが見付か

本は多いが、内容は大同小異である。

ただ云ふ程のものでもありませぬ。それで今專ら材料にしますのはアークライト(Arkwright)と云ふ人のザ・エー・ビー・シー・オブ・テクノクラシーと云ふ本。それからもう一つは第二番目のチエース(Chase)と云ふ人のテクノクラシイ・アン・インタープリテーション(Technocracy, an Interpretation)と云ふ本であります。此チエースと云ふ人は前に私が報告申上げました、ア、ニユー、デイール(a new Deal)と云ふ本の著者でありまして、あ

時に此のカ、チュー、デエールと云ふ本の中の「第三の道」と云ふものをお報告申上げたのでありますが、是はどうもテクノクラシーに似たやうな思想である。テクノクラシーとは一致しないけれども非常にテクノクラシー臭い思想である。さうして又是は謂はゞアメリカンファシズムとも言ふべき思想であると云ふことを申上げましたが、其の後一週間ばかりしまして、此のスチュアート・チェースと云ふ人の彼のテクノクラシーの批判とあつたやう

同書

な極く薄い本が参りました。それで結局読んで見ますと、チェース自身も、此の自分の唱へて居る第三の道と云ふ思想がテクノクラシーの理想とする所に殆ど一致して居る。併し多少違った所があるのだ、と云ふことを言つて居りますが、それは後にお紹介申上げることにしまして、此のチェースの書いて居ります「テクノクラシーの批判」と云ふ本は、テクノクラシーを純粋に紹介したものではなくて、寧ろ自分の「第三の道」の方に引張り付けよう

としたやうな本でありますから、是は先づ引用する緻密化しまして、アークライトと云ふ人のテクノクラシー是はテクノクラシーを言始めたスコット（Scott）と云ふ人の説を極く砕いて書いたものでありまして、此較的便利なものと思ひます。スコットの書いた本が手に這入ると非常に宜いのでありますが、是はまだ今向ふで印刷中とあったやうな廣告があって居る位で、まだ日本には恐らく這入って居まいと思ひます。併し新聞とか雑誌

に出て居るものでスコットのものは間に合ひますので、大体アークライトが説明して居る所に依って、それからチェースの方と混ぜ合せて、後は新聞などに出て居ましたのを取入れ申して申上げます。

今日の話は何時もと型が少々違ひまして、本の各章に依って申上げると云ふ譯に参らないのであります。それでどう云ふ順序で申上げるか纏めて申上げて置きます。第一番目にテクノクラシーの意味。テクノクラシーとはど

か云ふものであるかと云ふテクノクラシーの文字の意味を少し申上げまして、それから第二テクノクラシーの発生して来ました沿革に付て、及び其の背後的な社會事情を申上げます。それから第三番目に機械化と失業問題。第四番目はエネルギーと云ふものに付て。第五番目に價格制度の問題。それから一番お終ひに新聞などに出て居ります諸家の批判を二三申上げて終りと致しますが、此の機械化と失業問題。それからエネルギーのことゝ價格制度の問題と、

此の三つがテクノクラシーの根本的のものになるのでありますから其のお積りにお願致します。

其の前に一寸スコットのことに付て申しますが、此のテクノクラシーは大体に於てスコットが言出したと云ふことになって居ります。

スコットと云ふ人は相当頭が良くて腕のある技術家だそうであります。何れも学問と云ふ方は餘りないやうでありますが、マスターとかベチェラーとかあったやうなものはない

等でなく

すうであります。だからアメリカに於て正式に技师の資格を取ることは出来ないのであります。チエトスの書いて居る所に依りますと一九一九年にヴエブレン（Veblen）といふ経済学者が或る本を書いて、それがテクノクラシーの根源になつて居る譯でありますが、ヴエブレンが本を書いた後にスコットはワシントンにやつて来て、ニューヨークに居るヴエブレンと交際しをり、其他チャールス・スタインメッツ（Charles Steinmetz）といふ電気技师と

か、ウォルター、ラウテンストラウ(シュ)博士(Dr. Walter Rautenstrauch)などゝ~~も~~議~~をして~~(交際を初めた。)居ったやうでありまして、それからテクニカル、アライアンス(Technical Alliance)と云ふ團体を拵えた~~りしました~~が是は餘り發展しなかった。~~やうであります~~。其後彼はエナァヂー・サアーヴェー・オブ・ノース・アメリカ(Energy Survey of North America)(即ち)~~と云ふ~~團体を拵~~えました~~。北アメリカ~~に於ける~~エネルギー調査會と云ったやうなものでありますが、~~それ~~

と云ふものを拵えて自分の説ーと云つてもヴェブレンの申しました説を演繹して行く資料を集めて居つたのでありますｏ二三年前までは其のエナヂー、サアーヴェーと云ふ團体に対しなどゝ云ふ方面から金を出して居つたと申しますと、アーキテクト・イマージェンシー・コムミッティ、オブ、ニューヨークしますやうな、やはり技術家の團体でありますが、さう云ふ方面から金を出して居りました。二年程前からコロムビア大學の方に参りまして、

其處で後援をして来れるやうになったと見えれ、其處が根據になって居ったのであります。が、最近中村さんから伺った所に依りますと、何でもスコットと云ふ人間は少々赤い、共産党に近いと云ふ譯でコロムビア大學から追はれたと云ふことであります。ネコットと云ふ人は大体そんな経歴の人であります。

(二)テクノクラシーの意味

僕もテクノクラシーの意味に付て申上げますが、現在のアメリカではテクノクラシーと云ふ言葉は色々の意味に使はれて居るやうに

見受けられます。第一はテクノロジー、是は機械工藝學とでもいふやうな學問でありますが、之を社會の實際の体系に當嵌めて、一つの社會的觀念を作り上げようと云ふやうなものイデオロギー。之を丁度デモクラシーと云った意味に對立してテクノクラシーと言ふのであります。第二はテクノクラシーの思想を有って居る人々の團体のことをテクノクラートと簡單に言って居ります。さうしたカトカチイトの著書を見ますと、此のテクノク

ラシーに付てどう云ふことを言つて居るかと云ふと、いきなり「諸君は数ケ月以来テクノクラシーと云ふアッソシエーションのことに付て大分聞かされて居るだらうと云ふやうなことを言つて居ります。さうして見るとテクノクラシーと云ふものはさう云ふ團体と云ふ意味が非常に強いやうに思はれます。第三、にはテクノクラシーがやつて居る仕事、例へばエネルギーの調査とか、社會体系に基く政治改革を加へるとか云ふ宣傳をやつて居るとか

~~ますあるはやはりは~~團体の仕事。~~も亦キウイウキ~~
~~まと云つて居るやうでありますす。~~第四、~~はは~~
斯う云ふテクノクラシーで構えられた社會は
~~キウイラレしと云ふ。~~大体此の四つの意味
が此テクノクラシーと云ふ中に含められて居
る。~~やうに思はれます。~~日本語では之を機械社
會と譯して居る~~やうであります~~が、斯う云ふ
非常に漠然としたものである~~ります~~から、唯機
械社會と~~譯しましたもの~~では~~無~~はつきり
しない。~~と思はれます。~~やはり原語の通りテクノ

クラシーでやつて行く方が宜からうと思ひます。そこで又此のテクノクラシーを奉じて居る人達をテクノクラツトと申して居りますが、是は丁度デモクラシーに對するデモクラツトといふやうな意味合であります。それで技術テクノクラシーを奉じて居る人達はどう云ふ人々であるかと云ふと、機械工藝學者とか、機械工藝學に關係のある色々のサイエンスをやつて居る學者、それから實際に機械を扱つて居る技師、さう云ふ人々の中に支持者が多い。

やうであります。
それから次に(三)沿革、テクノクラシーの沿革に付て
申上げますが、是は二期に分けるのが宜いと
思ひます。それは現在ではテクノクラシーは
一九三三年の一月にコロムビア大学のハワー
ド・スコットが発表したのに始まるとは
申して居りますけれども、是と同じやうな思想
がスコット以前にもありましたから、先づス
コット以前のテクノクラシーの思想を見て行
かねばなりませぬ。此テクノクラシーと云ふ

文字は決してスコットが拵えたのではありま
せんず、既に一九一九年にW・H・スミス（Wi-
lliam H. Smith）と云ふ人が拵えたものだけで
であります。やはり其の意味は現在のテクノ
クラシーと同じやうな積りで拵えたのであり
ますけれども、スコットが言ふ程はっきりし
たものではなかったかも知れません。併し兎
に角一九一九年にテクノクラシーと云ふ言葉
が出來て居りました。それから今度は其の思
想の方はどうかと云ふ淵源があるかと云ふと、是

も一九一九年にソールスタイン、ヴェブレン(Thorstein Veblen)と云ふ人が発表して居ります。ヴェブレンが一九一九年にザ・エンヂニアース・アンド・ザ・プライス・システム(The Engineers and the Price System)即ち『技師と價格制度』と云ふ論文を書きましたが、其の中にある思想が現在のテクノクラシーの思想と非常に密接な関係がある。のであります。先づヴェブレンの思想或は理論はどう云ふ所にあるかと申しますと、結局其の要領は技術家に

依る産業の統制と云ふことでありまして、言
葉を換へて言へば一種の集産主義、日本のま
かがりズムか、又は共産主義に非常に近い。
のであります。ヴェブレンは第一に経済組織
に対する企業主の絶對的支配といふことに反
対し、居りまして、結局（事実上）産業に従事して居る
者は技術家なのであるから、技術家が主催す
る所の共産主義的な社會を最も善しとする。
云ふやうなことを言って居ります。第二には
技術家が斯う云ふ社會を統制的に支配して行

くことに依って價格制度を廃止してしまふ。せんとする。
是は成程共産主義方面の思想と一致する所が
ございます。ヴヱブレンの言ふには、
抑て技術家が機械の非常に大きな生産力を拵
えたのであって、斯う云ふ非常に大きな生産
力を円滑に運用して行く者は結局機械技師で
外にはないのであって、企業の所有者と云ふ
ものは斯う云ふことに対しては殆ど力がない。
ものであります。然るに事業家が唯價格制度に依
って販賣上の利益、即ち物を賣って儲けてや

さうと云ふやうな所からばかり有ゆる生産組
織を動かして行かうとする。其の結果一方に
生産が非常に過剰になって来ると同時に
度は其の様な現象として非常に物が出来過
ぎて値段がどんどん下って来る。さうすると
其の値段を支へる爲に或は生産制限もしなけ
ればいけないとか、折角拵えた物を焼棄てゝ
しまはなければいけないとか云ふ非常に大き
な矛盾が起って来る。斯う云ふ矛盾とか障碍
とかゞ積り積って行きますと、機械に依る生

を得る目的から

又動的に

價格が

産組織といふやうなものを根本的に横つてし
まつて、さうして斯うなる問題が積り積つて
遂に爆発して、社會の物理的体系と云ふやう
なものを壊してしまふ。やうになる。單に値段
といふものの上に乗つて居る企業者の利益が
中心になつて居るから、真に社會が必要とす
る物の生産するといふことが行はれないのだ
ある。又同時に機械の発達が非常に激しい結果
やつて来ると、一番良い機械を持つて居る人だ
けが利益を得ることになつて、何れから見て

も極めて非社會的なものである［にある。］。所が本當の社會の目的、又産業の目的と云ふものは、社會が其の産業に依つて出來て來た［其の］結果を平等に享樂すると云ふ所に目的があるのであつて、生産手段と云ふやうなものも皆此の目的の爲に使はれなければいけないのである。斯う云ふ所から價格制度とか、利潤中心の經濟と云ふやうなものを棄ててしまつて、アメリカは天然のエネルギーの資源と人間とを旨く結付けて、産業を円滑に運んで行かなければいけ

ないのであつて、而も今日のやうな機械の發達力の非常に速かな時代に於ては、技術未熟の手入れだけと人間とを旨く結付けることの出来る者は、精確な知識と手腕とを持つて居る工業技術家と又科學者と云ふやうな者の外にはないのである。斯う云ふ者が産業界を主催して行かなければ天然のエネルギーを利用して社會が平等に享樂することの出来るやうな組織を旨く運んで行くことは出来ない。又云ふたやうな、斯う云ふ思想を此のヴヱブ

星が

レンと云ふ人が発表して居るのであります。（の思想である。）（排斥）
それスコットは其の中にある價格制度の破壊とか、技術家に依る産業の主催とか、それからエネルギーと云ふやうな所からヒントを得て居るやうであります。ヒントはかりでなく、之をもつと推廣めて、具体化して行かうと云ふやうな行動を取つて居るのであります。其れが此のヴエブレンの本が出ました直ぐ後に、スコットと云ふ人が何處からか現はれて来て、ワシントンにやつて来てヴエブレン

など交際したり、斯う云ふ思想を持つて居る技術家とか學者と云ふものと交通するやうになつたのがあります。

それで今度はスコット以後のテクノクラシーースコット以後と申しましても今の所ホロトトが專賣特許を持つて居るやうなものでありますからスコットのテクノクラシーありますが、それは今申しましたやうにヴェブレンの思想を其の儘受継いだものと見て誤りないと思ひます。併ながら此のヴェブレンの

を初め

有つて居りました社會主義的、共産主義的な露骨なものは巧みにぼかして、僅かのちやなと思はれる点があります。そうして新に殊更に人類生活全体の基礎としてエネルギーと云ふものゝ單位を持つて來て、是を人間生活の單位にして萬事エネルギーでやつて行くと云ふやうなことだけを強調して居りまして、特に共産主義的なことは言はない。間接に唯此のエネルギー單位と云ふことで以て其の思想を現はして居るのでありますが、それで

はどう云ふやうになるかと云ふと、全部エネルギーと云ふものを中心にしてやつて行く。即ち其の價格制度の社會經濟組織其のものをエネルギー單位の組織に置換へて行くと云ふことを強調して居ります。此の理由に付ては後で第三番目の所で申上げますが、斯う云ふことから、結局價格制度の延ひては利潤經濟と云ふやうなものが否定されて居りますから、是は結局資本主義には反対と云ふことになります。併ながらスコットが言つて居り

然すれば、テクノクラシーは共産主義にも反対である。社會主義にも反対であり、又ファシズムにも反対である。結局是等の思想は色々過激なことは言って居るがやはり價格制度は存ふものは持って行く。成程共産主義では貨幣を失くすし、利潤経済を失くしてしまふことを強調して居りますけれども、結局是は形を変へた價格制度が残って行くので、さうなればそれをプロレタリアが握って行く。主催して行く人が違ふに過ぎない。根本的に價格制度

共産主義と雖も

から脱却し得ないのであるから、共産主義と雖も吾々の眼から見れば問題にならないと云ふ様なことを言って居ります。

そこでエネルギー萬能主義の社會を造りますは、之を技術家が支配して行きますのに実際アメリカでどんな方法でやるか。それからエネルギーを單位とし生産し消費せんの分配をどう云ふ手段でやって行くかと云ふことに付ては、此のテクノクラシーや現在までの所では何等具体的のことを言って居らない。

ませぬ。此のテクノクラシーを宣傳するのに二つの根據――と云ふよりは二つの方法があります、第一には現在の價格制度に依る經濟制度が既に駄目になつて居る。（金と）是は色々の理由を擧げて駄目だと云ふことを言つて居ります。（示す。）それから（第二段として）之れに於てはテクノクラシーでやつて行けば斯ういふ駄目な所が總て旨く行くのだと云ふことを言つて居ります。併し其の現在の制度が駄目になつて居る。それからテクノクラシーならば旨く行くと云ふ此の

二つの間をどうあやふやに移し換へ、どう抹ふやうに行つて行くかと云ふ其の間を繋ぐ所はぼかして居るのです。其處ははつきりしたことを言つて居りませぬ。吾々から言へば其の実際の所が聞きたい譯でありますけれども、さう云ふ実際の所はうつかり発表すると非常に危険なのでありませう。実際的のことは餘り書いて居りませぬ。其処に又テクノクラシーの非常な弱点があります。而して、吾々から攻撃されると云ふ結果になるのでありますが、要

するにテクノクラシーが実現して来れば世の中が萬事旨く行くのだとは言って居りますけれども、どう云ふ風にして旨くやって行くかと云ふことはテクノクラシーの中には出て来ませぬ。甚の結果ある人などは、テクノクラシーなるものは唐人の寝言で実際社會では問題にならないとかなんとか悪口を言って居る。人もあるやうであります。テクノクラシーの沿革はさうさせやうなものであります。然らばアメリカでテクノクラシーが非常に

而も

燎原の火の如く傳播して居るのはばかげた歓
であるかと言ひますと、やはりさういふもの
が人々の耳に這入り易いやうな社會状態にな
つて居つたのであります。是は前にチエーホの
「第三の道」をお話した時にも一寸お紹介しまし
とでありますけれども、一九二九年の後半頃
からアメリカは非常な不景氣に襲はれ、
丁度フーヴァー大統領あたりが一生懸命で切
抜けようとしたのでありますが、結局旨く行
かなかつたといふ所から、資本主義の将来

からで

が失敗し

民衆は

に非常な失望を感じて居つた。さう云ふやうな所へ此のテクノクラシーが——例へば一週間に二日、而も八時間働けば一週間生活出来る、之を一年に積めば一ヶ月位働けば後の十一ヶ月は働かないで食つて行ける。斯う云ふやうなことを言つたものですから非常に大向に受けた譯であります。[illegible]技術家の中には斯う云ふ思想が瀰蔓して居るやうであります。それは、技術家と云ふものは平派に社會的生産をやるだけの力を持つて

停る。機械を旨く使へば社會全般が需要するだけのものを生産する能力を持つて居るのだけれども、企業家が自分の利潤經濟の觀念から、技術家の最も能率的な動く自由を阻碍する。やうな傾向がある。是ではいけない。故に社會全般が享樂して行く爲には技術家がやつて行かなければいけない、と云ふたやうな思想が技術家の中に割合に多いやうに見えます。それはチエーホーも言つて居りますし、又此テクノクラシー一派も斯う云ふた

運轉して

を滿す

行動を

ことを感じて居るやうであります。さう云ふや
うにアメリカの経済事情が悪くなつた所に持
つて来て、技術家の方は現在の眼から見
ますれば多少危険と思はれるやうな思想があり
ますれば、又此の一九二九年以来の不景気の
為に失業は無限に殖えて来ると云ふやうな傾
向を助長せしめて来ましたれば。になつた。それで此の個人主義的
國家に於きまする失業問題と云ふものは、是
は日本などから見ますと餘程惨酷なものであ
りまして、まあ日本であれば一人や二人家の

者が失業しても、親類を食ひ歩くとか何とか言つて、家族主義的色彩が多分残つて居りますからまだ幾らか宜いのでありますけれども、アメリカあたりの非常に個人主義的の國になりますと、一旦失業すると、其の失業其のものが直に餓死と云ふことゝ同じやうな結果になつて居ります。此の失業問題は非常に重大視されて居るのでありますが、斯う云ふ失業が一九二九年以来非常に殖へましたので、こんな点からもアメリカの大衆に非常に受けて

来たのであります。所が此のテクノクラシーは（此の一般民衆及び）失業者の方面とか、技術家の方面と共に又中には相当多い同感者があるばかりでなく、アメリカの資本家側の方でも其の用語をうかがわりませんが、やはり多少テクノクラシーに是に傾聴して居る資本家も相当ある様である（と謂はれる。）リます。して見ると先づアメリカ全般に亘つてテクノクラシーと言ふものは注目されて居るものだと言へる。と思ひます。

（四）機械化と失業問題

倚て是からテクノクラシーの思想の重要なる
問題になるのでありますが、其の第十として
機械化と失業問題に付てテクノクラシーでは
どう云ふことを言って居るかと云ふことを申
上げます。テクノクラシーの方で言って居る
所に依りますと、(水ば、)現在のアメリカの失業者は
約千二百万人程あります(あるが、)(統計は)けれども是が十年程
前即ち一九二九年頃でありますが、其の頃
は大抵職業を持って居った。(のである)若れが現在では
千二百万人の失業者を生んで居る。産業の発

達する順序に從つて見て來ますと、産業が余
り發達して居ない時代には勿論労働も非常に
のは余り需要が少いのでありますが、産業の
發達に伴ひ段々労働も需要も傾向が
上つて來る。所が今度は産業の發達が或
る程度に達してしまふと、今度はもう労働の
方は余り需要されなくなつて來る。それは
如何なる理由から來るかと申しますと即ち技術的
非常に發達の結果機械といふものが
人間の代りに働き出すので、技術的發達が人

闇とか小生産要素を他のものに置換へてしま
ふのでありまして、さうなつて来ますと、産
業発達の程度が高まれば高まつて行く程労働
者に対する需要は減少して来る。傾向がありま
す。米国では労働者の雇傭数が一九一八年に
最も高點に達し、て居ます。其の後は年々は
落り、下りはありますけれども、大体に於て
下落の傾向を取つて居つて、是が殊に近頃は
落ちて来るに従つて加速度的に労働需要が減
少して居る。之がはつきり現はれて来ますと、

一九一八年がピークになつて居つて、それから以後は総べて下の方に向いて来ると云ふ傾向になつて居ります。一方生産の方は良ると云ふと、一九二九年に於て一番高くなつて居る。是はどう云ふことになるかと云ふと、一九一八年以後労働者の数は減つて来るけれども、生産高の方は殖えて来る。寧ろ生産高は一九二九年に於て最高に達して居ると云ふ如き事になる。逆行的な傾向がアメリカで見られると共に諸物価は下落して居ります。之を二三の個別的商品

に就いて見~~ますと~~れば、小麦粉の生産は殆ど労働~~と生産量がどういふ逆行的傾向を見せて居るかと申しますと~~、一八九九年に~~於きましては~~三万二千人の労働者が四億七千百万ブッシエルの小麦粉を~~拵えた所が~~生産し、一九二九年に於ては二万四千六百人の労働者が五億四千六百ブツシエルの小麦粉を拵えた。~~卅年前と比較して見ますと~~、労働者の方は廿一万人程減って居るのに、生産額の方は一億ブツシエル程殖えて居る。~~と云ふやうな逆行的傾向が現れ見~~

て居る。鋼鉄の生産に付て見ると、一九〇〇年に於きましては、鋼鉄を一千百万噸生産するのに対しましては、延人員六億人が必要であったが、一九二九年に於きましては、五千八百万噸の鋼鉄の生産に延人員七億七千万人が需用されて居る。之を見ますと、約二十九年間に四千七百万噸の鋼鉄の生産が増加したに拘らず、之に要する延人員は僅に一億七千万だけ殖えたに過ぎない。斯う云ふ統計があります。又銅の生産に付て見ますと、一八七

は

は

〇年には一万二千五百噸の生産に対して六万人の人間が従事して居った。一九一六年には九十一万二千噸に対して八十一万四千人、一九二九年には、~~非常にますます~~九十万六千噸に対して延人員は六十万六千人、と斯う云ふ傾向が見える。~~印刷出版~~其他自働車工業の~~出版印刷~~、毛織物業、~~乃至自然、斯う云ふ大規模の企業ばかりでなく、~~極めて小規模の印刷屋と云ふやうなものの迄にも、~~やはりやはり~~斯う云ふ逆行的傾向が見えて居ると云ふ統計を示して~~居ります~~居る。要するに

生産額が増加しても、労働延人員は（に逆ひする）（の激減）
寧ろ非常に減少して居ます。是は皆機械を
使用すると云ふことに到達して居る。のであり
ます。それで機械化の傾向は何時でも継続
起るかと云ふと、始終起って居るのでありま
す。景気が好いとか、悪いとか云ふことに（左右）
は金融関係なく、此の傾向は起って居るのであります。
唯景気の好い時よりは景気が悪くなると一層甚の傾向
が激しくなる だけの違ひがあるだけで
ありまして、景気が好からうと悪からうと、

此の生産設備と労働從人員の逆行的傾向は常に存して居ると言つて居ります。さうして機械の發達は速力が早ければ早い程人間の労働要素と云ふものは後に取残されてしまふのでありまして、其の結果現在では、假令新しい産業が興るにしましても、此の産業を建設する期時だけは一時労働者が需要とされるけれども、既に申したやうな逆行的傾向が更に強くなつて来まして、結局新しい産業が起つたからと云つて労働者を需要するのは極めて微々

たる程度にあるのである。・留る。要するに労働需要を刺戟するだけの力がなくなつて居る。是はどういふ訳であるかと申しますと、結局現在のやり方といふものは、価格経済組織が然らしめて居るのであつて、・是を防ぐには・その結果を起させない為には、どうしてもエネルギー単位にするより外ない。失業問題の解決の為めから言つてもエネルギー単位でやつて行かなければいけないと云ふ。と失業問題に付ても述べて居ります。

（五）エネルギーに就いて、

然らばエネルギーと云ふものをどう云ふやうにするか、是がテクノクラシーの中心的問題でありますが、元来エネルギーは、物理学上から言へば不滅なものでありまする。例へば地球は太陽の一滴でありまして、太陽が根源になつて居る。現在でも太陽から熱のエネルギー、光線のエネルギー（手）自体を受けて、地球上の生物が地球上に住んで居る動植物其他のものゝ生活が営まれる。生活して行くのでありまして、総て太陽に支配されて居る。太陽のエネルギ

しから出て居るのであって、さうしてエネルギーは一定不滅のものである。形は色々に変るけれども不滅のものである。さうして例へば石油とか石炭とか或は水力とか何れのものも是も一つのエネルギーの元であるのでありますが、是も太古何億年か何萬年の前に太陽のお蔭で出来た所の動植物が地球の中に埋蔵されて居りて出来たものでありますから、要するに是も太陽のエネルギーに支配されて居る。所が太陽のエネルギー1日分は太陽がある限り地球

にやがて参りますけれども、地球に埋もれて（與へられるが、）（在る）居る石油とか石炭は或る程度まで行くとなくなつてしまふ。が、然し是はエネルギーがなくなつてしまつたのではないけれども、石炭とか石油とか云ふ形に於けるエネルギーが消滅してしまつたに過ぎないのであります。事。だが此の石油とか石炭とかのエネルギーが消滅してどういふ方に向いて行くかと申しますと、例へば熱にもなるし、其他の科学的生産力となつて作用をして行く。斯う云つたやうに工

ネルギーの形を変へて行くのであるから、人間の生活上から云へばエネルギーが消費された結果になります。エネルギーと云ふものは保存と云ふ性質を有って居るのでありまして、石炭とか石油とかがなくなるのは、エネルギーの存在から言へば決して絶対的に消滅したのではありませぬけれども、人間の眼から見て、之を使用する上から言ひますと、やはりなくなって居るのでありますから、之を假りにエネルギーの消費と云ふ言葉

で現はすことにして居ります。所が昔から歴
史を見ますとおよそ（古来）人間の社會に於ける生
活と云ふものは何かの仕事をして居る（する事）のである。
ります。其仕事を為し得る力が（は）物理學上のエ
ネルギーであります、（是は、）其の仕事の單位は物
理學の方から申しますと（的に）測定することが出来る。
ものでありまして、仕事の單位とかはエルグで
が、大小單位があります。是は千瓩の物を毎
秒一糎の加速度で一糎だけ引張る仕事で、極
く僅な仕事でありますが、それがエルグと云

10×20
國政研究會

~~小仕事の單位が現はされますし、それから~~又~~元を熱量の方の~~エネルギーの單位で~~申しますと~~云へば、カロリーで~~計~~し測定することが出来る。何れにしても人間のやつて居ることは總てエルグとかカロリーと云ふ物理的單位で以て測定することが出来る。是が重要な論據にな~~つて居ります~~る。それで大人一人が一日に八時間働くと、~~します~~其の勞働力は十分ノ一馬力あるのださうで~~御ります~~。米國の人口一億二千万人と~~しまして~~、其の中、三千六百万人が大人~~であるとします~~と假定すると、

是だけの大人が働いて出し得る力は其れの
は三百六十万馬力になります。所が現在の
メリカを見ますと、新式タービンが一台で
◎八時間に三十万馬力の力を出し得る世の中
はなって居ります、而も人間の方は八時間
労働とか何とか云うて其他の時間は休んで
ましますけれども、機械の方は四六時中休まず
ことがありませぬから其の馬力は非常なもの
であります。結局アメリカに於てどれだけの
馬力があるかと申しますと十億馬力あるさ

うで、是は全世界に振割って見ますと、全世界の大人が出し得る馬力の五十倍に相當するのだ。そうであります。是はどう云ふ所から来て居るかと云ふと、要するにアメリカが機械化して居ると云ふ所から斯う云ふ強大な馬力を持って居るのであって、是から見るとそれアメリカの人間の大人が持って居る三百六十万馬力と云ふものは非常に微々たるものに過ぎない。と云ふ結果になって居ります。是を又別の方面から見ると、極く大昔に

は人間だけが動力の要素であつた譯でありま
す。例へば機械とか、道具を使はないのであ
りますから、仕事をするかと云へばそれ
には人間が赤手空拳でやるより外なかつたの
であります。さう云ふ時代にはエネルギーの
根源はどう云ふ所から來たかと云ふと、結局
人間が食べる食物から出て來た譯であります。
えをエネルギーの單位で現はせば見ますと、
人間だけで食物から出て來るエネルギーと云
ふものは二千五百カロリーに相當すると云つて

係ります。二千瓩カロリーと申しますと、二
瓩の水を一千度だけ上げると云ふ熱の單位
（の温度）
でありますが、兎に角人間だけのエネルギー
は二千瓩カロリーである。所が産業革命、
是は経済上の言葉で、一七七五年の蒸気機関
の発明頃から産業革命が行はれたのでありま
すが、其の産業革命以前に於きましては、
全然人間だけがエネルギーの元ではなくて、
牛のがありまして、（其後）風車とか、水車とかも
ありましたが、に依つて動力を発生して居ります

是は
其他の結果、
して、

井かれ斯う云ふエネルギーを人間の食物か
ら来るエネルギーに併用するやうになりまし
たから、一人當り一日にどれだけのエネルギ
ーを消費するやうになつたかと云ふと、四千
瓩カロリーになつて居つたとなつて居ります。増えた。
要するに極く太古の人間だけの時代から見ま
すと數量が倍になつて居る譯であります。所
が今日のアメリカは見ますと、非常に機械力
が發達した外に、石炭とか、石油とか、天然
ガスとか云つたやうなもの等の形で出て来るエ

ネルギーが非常に豊富になりましたから、此の石炭、石油、水力、天然ガスだけの熱量を一日一人當りに換算して見ますと、十五万四千瓩カロリーになるさうでありまして、之に従来人間が道具や何かを使って居りました四千瓩カロリーを加へ、それから又其他の原料から出て来る熱量を加へますと、結局十六万瓩カロリーを一人の人間が一日に消費して居ることになるやうな状態が出て来るのださうである。ありまして、是が現在のアメリカの有様

激増し、

テクノクラシーをやるとすれば生活標準の根
據になつて来る譯であります。
所が現在のアメリカの社會、經濟生活
たやうなものがどういふ基礎の上に立つて居
るのであるかと申しますと、特に各種の新
は發見、例へば電氣の發見と云つたやうな
ものでありますが、さういふ新發見と天然の
エネルギーの資源と、例へば鐵、石油、石炭、
又は電力と云つたやうなものがありますが、
さういふ資源と、それからあとはウオッチフ

ルネス（Watchfulness）監理と譯して居
りますが、コントロールの監理ではなく、
物をものを能く見て[illegible]適當に運用し
行くと云ふ監理でありますが、此の三
要素から成立つて居ります。其處に前述の如
く機械的に非常に發達いたしました、
資源、即ち天然のエネルギー資源―例へば
コーカリーで現はして居りますが―其の
天然資源の消費といふものも非常に莫大な量
に上つて來たのであります。然るに現在の力

監理
即ち前二要素の
なる監視及び
により
が、全體に行渡らない

メリカは非常な不景気に襲はれて居つて、多数の失業者を出して居る。斯う云ふ不均衡状態がどう云ふ程度であるかと云ふことを一つ之に現はして見ますと、過去百年間の統計に依ると、エネルギーは時間の八乗に比例して増加して居る。之を数学的に図表に現はしますと、殆ど直角に近いやうに上にきゆうつと上つて来るのであります。所が今度は借金の方は——借金のことは後から價格制度の所で出て来るのでありますが——借金がどう云

如何に殖えて来るかと云ふと、是は時間〔七〕の四乗に比例して増加して来るのであります。是はエネルギーに較べると少し緩くなつて居る譯であります。それから生産量の方はどう云ふ割合で増加して来るかと申しますと、〔七〕の三乗に比例して増加して来る。随てエネルギーなどに較べますとずつと殖え方は少い譯であります。それから人口の増加はどう云ふ程度で殖えて居るかと申しますと、〔七〕の二乗即ち時間の経過の長さの二乗に比例して増加

して来る。斯う云ふやうにエネルギーが一番多く、其の次は負債、それから生産、人口云ふものはやはりこんな順序で殖える度が少くなつて来ますが、兎に角それ等が殖えて来るのに対して生産に需要される延人数は激減して居るのでありまして、是は七の四乗に比例して減つて来る。即ち下にうんと下つて来る譯であります。丁度借金の殖えるのと同じやうな率でそれが逆に減つて来るのであります。斯う云ふ不均衡な状態になつて居るが、是はどう云

原因から来て居るのであるかと云ひますと、
結局前から度々言ひました通り、機械が人間
に代ってしまったからである。第二番目には
もう一つは経済機構の監理のやり方が悪い事である
ふ、斯う云ふ原因から来て居るのであります
から此の結末を直すとすればどう云ふ方
法を執れば宜いかと申しますと二つある。
だそうであります。
第一番には機械が非常に発達したから斯う
云ふ不均衡を生じたのであるから、機械を全

部廃止してしまつて、何でも彼でも人間が
やつとやれやれすれば宜い譯でありますが
さうすれば今機械の代りに人間が仕事をする
から失業はなくなる。今言つたやうな均衡
はなくなることになります。併しながら現在の
アメリカは機械が非常に発達したといふこと
を根本的の條件として成立つて居るのであり
ますから、今機械といふものを全部叩き壊し
てしまへば即座にアメリカの人間といふもの
は死んでしまふ結果になるのであります。生活が出来

凡て人力に依ればよい。

即座に生活力を失ふ

~~なくなつてしまふ~~。それ位機械と現在のアメ
メカの社會の結付き方は密接~~なもので佳り~~であるから、
~~世界より~~、第一の方法である所の機械の全部撥[illegible]
~~でありまするあふさ~~とは絶対に出来ない。さ
うすれば結局第二の方法である所の監理の仕
方法~~コントロール、或はウオッチの~~仕方を変
へて行かなければならぬ~~のであります~~。所が
現在の経済界はどう云ふ方面から監理されて
居るかと申しますと、二つの方面から監理さ
れて居るの~~でありまして~~、即ち一つは経済

組織を所有して居る所の企業家の方面、~~亦は~~〔他の〕~~未だ分されて居る。それから更に~~一つは実際に生産機関を~~行ひ~~〔動かし〕て居る所の人間で即ち技術者が監理して居る。~~斯う云ふ二つの方面から監理されて居るのであります。~~然るに技術者の有って居る科学的~~な~~監理~~方法~~は、企業家の〔優越主義、〕~~加へて、更に又其~~の方面から来る監理の力に依って屡々歪められてしまふ。~~と云ふ結果になります。~~要するに是が現在の悪い原因である。~~然し木を直ちに挙げて~~前の機械を捨てゝし

まふことが出来ないならば、結局今度は價格制度を廢止してしまつて、エネルギーを基礎として、機械學者か、又は技術家が之を監理して行くと云ふ方に移つて行かなければならない。さうすれば前に述べたやうな非常に大きなエネルギーと、~~それから~~機械の生産力とに依つて、結局人間は一週間に二日間宛、一年總計約一ケ月程働けば一年の生活を樂に保つことが出来る。~~と云ふ結論を出して来て居るのがあります。~~ 之が失業問題の結論である。

(六)價格制度の問題

そこで價格制度乃至は貨幣制度に對してテクノクラシーはどう云ふ態度を執って行くかと云ふことが問題になって来る~~のであります~~。~~併し~~現在の經濟界は總て貨幣が單位になって居り~~ましても~~、~~それも~~價格制度が行はれて居り、利潤が中心になって居る。~~所の經濟制度であります~~。所が此の中心を爲して居る貨幣~~は~~~~それもの~~が科學者の立場から言ふと非常に當てにならない~~ものなのださうであります~~と言ふ。~~どう云ふ譯であるかと云ふと~~、つまり昨日の一弗と昔

あふれたのは、今日の一弗（の購買力）とあふれたものは非常に違
ふ。例へば昨日一弗で買へた品物を今日一弗
で買はうとすると前の半分位しか買へないこ
ともある。又前より餘計に買へることもあ
る。さうあふやうな一弗とあふれものは四六時
中動いて居る。所がカロリーとあふれものは絶
対に動かないものである。例へば石炭一介の
中に含まれて居るカロリーはとあふれものは、銭
も石炭の値が（價格に拘らず）高くなろうと安くなろうと、永
代不変のものである。一弗で買ひ得る石炭の

量は異なるけれども、一作の石炭の中に含まれて居るカロリーといふものは何時まで経っても変はるものではない。して見ればカロリー程安定なものはないと云ふ。斯様なものが價格制度に反對する根本の理由になって居る。それでカロリーとかは生産とか消費とか云ふものを測定するのに極めて正確な単位になり得るけれども、若し生産とか消費を價格の方から統制して行かうと云ふと、前述の

即ち、貨幣そのものが非常に不安定なものであるから、どうしても價格の方から行つたのでは中々調節が巧く行かない。然るに現在の制度に依りますれば、此の貨幣的利益の為にのみ生産され、消費せしめられるのが動かされて居るのであつて、出来ない者がやらうとして居る。其處に非常な缺陥がある。ですけれ、現在社會の経濟を動かして行く根本の思想はどういふ所から来て居るかと云ふと、生産に對して貨物が消費されるかと云ふこと

實際に

10×20

は
考へられたことがないのであつて唯貨物が賣れるか賣れないかと云ふことだけが中心になつて居る。是は本當の生産と云ふものの意味から言ふと非常に間違つたことである、と云ふやうな思想を此のテクノクラシーでは述べて居るのであります。

ではなくて

さうして現在や生産の行はれる原動力は、利益と云ふものを目的とした借金で賄はれて居る。例へば債券とか、株式とか、其他長期短期の借金で賄はれて居る。此のテクノクラ

シーでは、例へば或る會社を興すのに株式を募集します。さうすると其の拂込は借金だ。又吾々が一円紙幣とか五円紙幣とか云ふ札を持つて居る。是は一種の借金だと云ふ立場を執つて居るのであります。それは一方から云ふと日本銀行が借りて居るのだと云ふ所から出て來て居るのであります。要するに債券とか株式とか、其他色々の借金で以て企業の原動力が養はれて居るので斯う云ふ借金が現在のアメリカでは二千一百八十億弗

小莫大な借金があるのださうであります。と謂ふ。
所が機械技術の発達はがどんどん発達して行きますと、常に新
昨日まで良かつた機械も今日は別の良い機械を以て、従来のものを時代後れにする。
が出て来るともう駄目になつてしまふのであ
ります。そうすると仕方がないから今度は新
良い機械に買換へなければいけないことにな
つて、前の借金がまだすつかり償はれてしま
はない内に又新しい借金が新しい機械を買は
なければいけないといふことになつて来ますので、
借金は増々殖えて行く。是が先程申しました

借金が此の百年来非常に殖えて居ると云ふ結果になるのでありますが、斯うなりますやうにも新しい技術の発達に追付く為に、どんどん借金が積り積って行くのであります。而も其の一方に於ては借金に対する利子を払って行かなければいけないし、企業に対する利益も取れなければ配當して行かなければいけない。是等が皆借金の中に加はって来るのであるから、借金の殖え方は非常に酷くなって、止め度もなく借金が殖えて行けば、果ては結局借金の累

借金が

のは此處で

清水氏と云ふことになつて、社会が潰れてしまふと云ふことになるのであります。

斯う云ふ風に借金が非常に殖えて来ると其れは結局生産費を切下げて行かなければならないのでありますが、生産費を切下げる為にはどう云ふ方法が行はれるかと申しますと、(とえは)機械は大量生産であり、或る場合には機械万能の機械は自動的な生産方法と云ふやうなものが採用されますが、(るか、其者に)斯う云ふ方法が採用されるとしまふと又其処に借金が殖えて来る。斯う云

ふ結果になるのでありますが、企業者は常に
労働者を休ませる爲に機械を使用するのでは
ないのであつて、原價を切下げる爲に機械を
採用する。それであるから借金がだん〳〵殖
えて行く一方に於て、労働者の失業も益々殖
えて來る。斯うすればやがては兩方共破滅の方向
に進んで行く譯であります。併しながら斯う云
ふ方法に依りましては一部の企業家、例へばア
メリカの例で申しますとフォードと云つたや
うな人は相當の利益を擧げますけれども、其

中利益を十人で消費し得るかどうかと申しますれば、利益フォードが一年に儲けるだけのものを一年に使ふと云ふことは出来ませぬ（ない）から、其の結果はそれは何等かの形式で再び投資される。なければいけませぬが、投資されると再び是が借金に加はつて来る。結局斯う云ふことが積り積つて商品の山が出来ると同時に借金の山が出来、失業者の群が非常に大きくなるはまふ結果になつて来るのでありまして、結局価格制度の中には三つの矛盾がある。ければ

10×20
國政研究會

ます。
其の第一は、元来消費者の購買力の根拠は と云ふもの
は労働の延人数に依つて生じて来るものであ ある。
ります。所が前申しましたやうに、労働の延
人数と云ふものはどれも減少すべき傾向があ
るのでありますから、之は要するに購買力の
減少と云ふ結果になります。る。それから第二や
利得は、價格制度と云ふものは労働を全体に
分配することとしないで、労働者の雇
傭数を減少させて来る。第三番目には機械に

対する投資が非常に増加した結果、
旧式な機械の時代後れたるに由ると云ふ、それ
に伴ふ損失の程度が非常に高くなつて来る。
是は労銀の切下とか、労働の減少と
云ふやうなことを生じて来るのであります。
斯う云ふ重大な矛盾が含まれて居るが故に、
價格制度はどうしても捨てなければいけない。
所がデモクラシーを奉じて居るデモクラシー
党とか、それから民主党とか共和党とか、
ファシストとかいふやうなものも、又社會主義

者も共産主義者も、何れも此の矛盾を完全に解くことが出来ないのであります。彼等の言ふ所は外形は異って居るけれども、兎に角プライス、システム[illegible]の上に立つ[illegible]のであるから、結局テクノクラシーの眼から見れば根本的に社會の改良をやり得ないものである。テクノクラシーから言へば、プライス、システムが悪いのであるから、プライス、システムにこびり付いて居る有ゆる思想[illegible]は何の役にも立たないのであ

つて、結局テクナクラシーに依るの外はない。のである。テクノクラシーになつて来れば北はアラスカから南はパナマに至る非常に廣大な地域の中に包まれて居る自然的エネルギー資源の上に立つて、其の非常に豊富な所から非常に旨い汁を吸ふのである。其処にはキャピタリズムを亦樹せ行けば結局アメリカの人間は非常に暮せるのであつて、其の生活はか云ふ風に非常に安らかと申しますと、之を一九二九年の標準で申しますと、一人頭

計れば

Lion's share

経済は

二萬弗位の收入がある程度の樂な生活が出來
ると斯う云ふことを言つて居ります。
テクノクラシー（批判一束）の中に言はれて居りますし
Hは、要するにそれだけのことしか言はれ
て居ないのでありますが、斯う云ふことが一度
唱へられて來ますと云ふと、方々から色々な
反對や贊成が出て來た。新聞などを見ますと、
何とかの生産團体がテクノクラシーに贊成し
テクノクラシーに加入すると云ふ通知を
して來たと云つたやうなことが出て居ります

しい、又一方支那も出て居りますから、極く狭い範囲でありますが、二三題目だけを摘んで見ますと、（紹介すれば）ノーマン、トーマス、彼は（アメリカに於ける社會主義者の相當な人でありますが、アメリカではどういふことを言って居るかと云ひますと、社會主義者の敵とする所は資本主義社會であって、プライス、システムではない。即ちテクノクラシーはプライス、システムに對して非常に反對して居るのであるが、社會主義者は資本主義其のものを敵とし

[illegible]

ナ偉いものであるから、此点でテクノクラシーとは一致しないのであります。併しテクノクラシーが言ふて居る所の社会改造の根本の思想は新井君は社會主義者としては大賛成であるから、テクノクラシーを社会主義者の方に引張り付ければ、社会主義が指導して行けば宜い。ものであるが、さう云ふことが出来るとすればテクノクラシーの持って居る根本の社会改造思想に対しては賛成であると云ふたやうなことを言って居ります。と言ふ。

社会主義と

これから経済学者の中では賛成して居る人
もあるし、賛成して居ない人もありますが、
アメリカでは相當な経済学者の一人であると
言はれて居ります ウイリアム、トルファアント、
フオスターとあふ人は、テクノクラシーとを
ふものは唯人騒がせの案山子見たやうなもの
であつて、中実は空っぽだとおふやうなことを
言つて居ります。又実際家の方面から試
見ますと、テクノクラシーでは機械の非常
な発達をした、何でも自動的にやつて行くや

に
る
ふ。
は、
の
の極致、

カにする。スヰッチ一つ押せばどれ位でも足りると云ふやうな大ートマテイツクな機械生産組織(の管理を理想として)すると云ふやうなことを言つて居るけれども、自動車業者の方から言ひ(ば、)ますと、餘り強度の自動生産組織にしてしまひでは自動車を拵へることは旨く行かない。結局テクノクラシーを自動車生産の方に當嵌め(れば)ると云ふと失敗であると云ふやうなことを言つて(る。)、実際生産上の立場から反対して居ります。又アメリカン、エンヂニヤリング、

カウンシル」アメリカ機械委員とでも申しますか、斯うあつたやうな技術家の團体でも、テクノクラシーの言つて居ることは中実は空っぽで実際役に立たないと云つて反対して居ります。又マルコム、カイヤーと云ふ人は、ダートマス大学の経済を教へて居る先生でありますが、此の人は、テクノクラシーと云ふものは要するに古い着物の上に持つて行つて新しい外套を掛けた程度のものに過ぎないと云つて居りますが、其の根拠は、テクノクラ

チエーは大体に於きまして前申しましたやうにヴエーブレンの思想に從つて居りますし、其のヴエーブレンの思想と云ふものは技術家に依る產業の主催と云ふことであつて、非常に古くからあつた思想である。經濟的に言へば目新しい思想でも何でもない。さう云ふ所から是は古い着物の上に新しい外套を掛けたゞけのものであつて、大したものぢやないと云ふことを言つて居ります。最後にネチエカトト。チエーリスがどう云ふ批評をして居るかと云ふ

ことを拾って見ますと、是も色々細かいことも言って居りますが、結局前にも言ひましたやうに、テクノクラシーの思想と、スチユアート、チエースのア、ニユー、デイールの思想は其の根本に於ては似て居るのであります。私がテクノクラシーを讀む前にチエースを讀みました時に、是はテクノクラシーに似て居ると云ふことを感じましたが、チエース自身も此のテクノクラシーの社會改造意見に對しては全然同感である（が）。併ながらチエースと

次の諸点で反対してゐる。
一、價格統制又は國民生産主義と、通貨管理によつて、尚ほ維持出来る。
二、自動生産組織は、テクノクラットが謂ふ程全米に行はれて居ない。
三、生産の発達は、更に新しい仕事を作る。
四、醫師、学者鉄道従業員等の仕事は、エネルギーで測定出来ない。
五、消費を統制する必要はあるが、嗜好等をテクノクラットの謂ふ様に、極端に型にはめる事は出来ない。

次の諸点で反対し

一、価格統制令は、（國政…

出来る。

二、自動生産…

程度に…

三、生産力…

四、醫師…

五、生産…

言って

紹介申しま

チェースの第

於きましては、此ら

経済界の消費生産と云ふ

発させて行くと云ったやうなこ

居るのでありまして、有ゆる産業

を國家の経営に移してしまつて、國家は一方で中央銀行をしてインフレーションをやつたり、デフレーションをやつたりさせて行けば、自然と生産と消費とが調節されて來ると云ふことを言つて居りましたが、此のやり方で以て尚ほ當分アメリカは持つて行けるぢやないか。今貨幣制度を失くしてしまはなくても、貨幣制度をコントロールして行くことに依つてまだアメリカは持つて行くのだから、何もテクノクラシーで言ふやうにカロリーを持ち

て来なければいけないと云ふことはないと斯う云ふことを言って居ります。それから第二番目にオートマティック、システム（自動的生産組織）例へばコンベヤーで前に材料がどん〳〵出て来ると云ったやうなやり方でありますが、斯う云ふことは現在のアメリカでもやって居るにはやって居るけれども、まだ十分一般化するまでには行って居ない。斯う云ふ組織を生産組織の根本にして、之を技術者が統制して行くと云ふやうなやり方はまだア

メリカでは中々やつて行けるものではない。テクノクラシーの言ふことは少々早過ぎると云ふやうなことを言つて居ります。第三番目には、是は相當痛い反對でありますが、テクノクラシーでは何でもカロリーで測ると言つて居るけれども、それでは何かの調査をするとか、學校の先生とか其他の研究者がやつて居る無形な、頭腦を主に働かせるやうな仕事に對してもカロリーで測れるかどうかと云ふことを言つて居ります。それから第四番目には

人間の嗜好と云ふものは少しも一様に行くものではないのであつて、随て消費と云ふものも一律に之を決めてしまふことは出来ない。成程チエースは消費の統制、消費経済の統制と云ふことを言つて居りますけれども、消費枚と云ふものをテクノクラシーのやうに固定的に決めてしまふと云ふことは言つて居らないのであつて、さう云ふ点からして、チエースは消費とか嗜好と云つたやうなものは決してテクノクラシーのやうに決定されるものではは

（註）

ない。それなれがエネルギー單位の經濟を卒直に受入れることは出來ない。テクノクラシーの根本的の思想には贊成であるけれども、いきなりエネルギー經濟と云ふものを持つて來ると云ふやうなことは出來ないと云ふやうな批評をして居ります。其他色々な批評がありますけれども大体それ位に落着くと思ひます。さうして非常に偉い政治家が何か云つたやうな方面からはまだ大した批評があまり無いやうでありますが先づ默殺の

形ではないかと思ひますが一つ面白いのはイタリーのムッソリニー首相が言って居るのでありますが、是はやはりテクノクラシーには賛成して居りません。どう云ふことを言つて居るかと云ふと、アメリカのやうな社會では経済統制と云ふことは確に必要である。けれども其の中で一番大切なのは人間なのであつて、機械などと云ふものよりも人間が第一である。斯う云ふ風に、統制經濟が必要であるからと云つて、テクノクラシーを持つ

て来ても駄目であると云ふことを言って居ります。それから其の統制の形式にしても、軍隊的に一番頂上に偉い人が一人居て、それから下は真っ直ぐに統制して行くと云ふのが適いのであって、唯エンヂニヤーとか、テクニシアンが寄り集って統制して行くのでは駄目である。要するにアメリカでは統制経済は必要であるけれども、テクノクラシーの統制経済では駄目であると云ふやうな批評がなされて居ると云ふことが此の新聞に出て居ります。

日本大体斯う云ふやうなものが、テクノクラシーで、あります。前申しましたやうに現在の制度が悪い。それからテクノクラシーでやつて行けばさう云ふ悪い所がなくなるで行くのだ、と言つて居りますけれども、其の間の間隙があり、又、其の間を結付ける具体的理論と云ふものはまだありませぬ。それで日本でも紹介して居る人も、テクノクラシーには結論がないと言つて居ります

ありますけれども、テクノクラシーの結論は
殊か居ります。要するに統制経済をやつて
行くので、それを科学的に、又機械学的にや
つて行かうと云ふのであつて、それを技術者
の側が專制的に統制して行かうと云ふのであ
るから、之を或る方面から見れば共産主義的
な所に行くと云ふことも言へるし、又一方か
ら言ふと、ファッシズム的な方向に行くと云
ふことも言へます。要するにファッシズムと
共産主義とは非常に違つたものであるけれど

も、或る場合には非常に似た所もありますので、之をどっちと云ふことは今避けて置きますけれども、兎に角テクノクラシーの結論は出て居るのであります。斯う云ふ科学的経済統制をやって行くと云ふ結論はあって居りますけれども、偖て其の結論をどう云ふ風に実行するかと云ふことに付ては餘り述べて居りませぬ。それで此のテクノクラシーは夢だと云ふやうな反対も出て来る譯であります。以上でテクノクラシーの話を終ります。

―了―

No.

Technocracy

一、序言、
二、テクノクラシーの意味、
三、論　章
四、機械化と失業問題、
五、エネルギーに就て、
六、價格制度の問題、
七、批判　一　結束

10×20
國政研究會
8. 2. 9000

№

Technocracy

一、序言、
二、テクノクラシーの意味、
三、沿革、
四、機械化と失業問題、
五、エネルギーに就て、
六、價格制度の問題、
七、批判一束、

10×20

「テクノクラシー」に就て

越智元治

一、序言

テクノクラシーの骨子を鳥瞰的に述べる。テクノクラシーは極く新しい話で本は多いが、内容は大同小異である。今専ら材料にするのはアークライト(Arkwright)のザ・エー・ビー・シー・オブ・テクノクラシーと、チエー

ス（Chase）のテクノクラシー・アン・インタープリテーション（Technocracy, an Interpretation）である。チエースはニユー・ディール（a new deal）の著者で、同書中の『第三の道』は非常にテクノクラシー臭い思想で、又謂はゞアメリカンフアシズムとも言ふべき思想であるが、其の後彼の「テクノクラシーの批判」が出た。チエース自身も、自分の第三の道がテクノクラシーの理想と殆ど一致して居るか、多少違つた所があると云ふ。チエースのテ

クノクラシーの批判と云ふ本は、テクノクラシーを純粋に弁護したものではなくて、寧ろ自分の「第三の道」の方に引付けようとするもので、アークライトの本はテクノクラシーを言始めたスコット（Scott）の説を極く砕いて書いたものである。

今日の話は次の順序で申上げる。第一テクノクラシーの意味。第二テクノクラシーの沿革及び其の背後的社会事情。第三機械化と失業問題。第四エネルギーに付て。第五價

格制設の問題。第六諸家の批判ニ三。此の中
機械化と失業問題。エネルギー價格制設の
問題。此の三つがテクノクラシーの根本的の
ものである。
テクノクラシーは大体に於てスコツトが言
出したことになつて居る。スコツトと云ふ人
は相当頭が良くて腕のある技術家ださうであ
るが、業歴は餘りないやうで、マスターとか
バチエラー等でなく、アメリカに於て正式に
技師の資格がない。チエートスに依ると一九一

九年にヴエブレン(Veblen)と云ふ経済学者が書いた本が、テクノクラシーの根源になつて居るが、ヴエブレンが本を書いた後にスコツトはウエシントンにやつて来て、ニューヨークに居るヴエブレン、其他チヤールス・スタインメツツ(Charles Steinmetz)と云ふ電氣技師ウオルター・ラウテンストラウシユ博士(Dr. Walter Rautenstrauch)などと交際を初めた。それからテクニカル・アライアンス(Technical Alliance)と云ふ團体を拵へたが是は餘り発展

しなかつた。其後彼はエナァヂー・サアーヴエー・オブ・ノース・アメリカ（Energy Survey of North America）即ち北アメリカエネルギー調査會と云ふものを拵へて自分の説ーと云つてもヴエブレンの説を演繹して行く資料を集めて居つた。二三年前までは其のエナアヂー・サアーヴエーにアーキテクト・イマージエンシー・コムミツテイ・オブ・ニユーヨークなる技術家の團体が金を出し、二年程前からコロムビア大学が後援をし、其處が根據に

なつて居つたが、最近スコツトは少々赤いか
共産党に近いと云ふ譯でコロムビア大学から
追はれたと云ふことである。

二、テクノクラシーの意味

現在のアメリカではテクノクラシーと云ふ
言葉は次の意味に使はれて居る。第一、テク
ノロジー、社会の実際の体系に当嵌めて、一
つの社会的観念を作り上げやうと云ふイデオ
ロギー。第二、テクノクラシーの思想を持つ

て居る人々の団体。第三、テクノクラシーがやって居る仕事。例へばエネルギーの調査とか、宣伝等団体の仕事。第四、斯う云ふテクノクラシーで拵へられた社會。大体此の四つの意味が此テクノクラシーと云ふ中に含められて居る。日本語では之を機械社會と譯して居るが、斯う云ふ非常に漠然としたものであるから、唯機械社会ではつきりしない。やはり原語の通りテクノクラシーでやって行く方が宜からう。又此のテクノクラシーを奉じ

て居る人達をテクノクラツトと云ふそれでテクノクラシーは、機械工藝学者とか、機械工藝学に関係のある色々のサイエンスをやつて居る学者、それから実際に機械を扱つて居る技師、さう云ふ人々の中に支持者が多い。

三、沿革、

テクノクラシーの沿革は二期に分けるのが宜い。現在ではテクノクラシーは一九三三年の一月にコロムビア大学のハワード・スコツ

トが発表したのに始まるけれども、是と同じやうな思想がスコウト以前にもあつたから、是を見て行かねばならぬ。此テクノクラシーと云ふ文字は決してスコウトが掴んたのではなく、既に一九一九年にW、H、スミス（William H. Smith）と云ふ人が掴えた。やはり其の意味は現在のテクノクラシーと同じであるが、スコウトが言ふ程はつきりしたものではなかつた。併し兎に角一九一九年にテクノクラシーと云ふ言葉が出来て居た。其の思想の

方も一九一九年にソールスタイン、ヴエブレン(Thorstein Veblen)と云ふ人が発表して居る。ヴエブレンが一九一九年にザ・エンヂニアース・アンド・ザ・プライス・システム(The Engineers and the Price System)『技師と價格制度』と云ふ論文を書き、其の中にある思想が現在のテクノクラシーの思想と非常に密接な関係がある。ヴエブレンの思想或は理論の要領は技術家に依る産業の統制で一種の集産主義、又は共産主義に非常に近い。ヴエブレン

は第一に経済組織に対する企業主の絶対的支配に反対し、結局事実上産業に従事して居る技術家が主催する所の共産主義的な社会を最も善しとする。第二には技術家が斯う云ふ社會を統制的に支配して行くことに依つて價格制度を廃止せんとする。即ち技術家が機械的大生産力を擁えたのであつて、是を円滑に運用して行く者は結局機械技師で、企業の所有者は斯う云ふことに対しては殆ど力がない。然るに事業家は唯價格制度に依つて販賣上の

利益を得る目的からあらゆる生産組織を動かして行かうとする。其の結果一方に生産が非常に過剰になつて来ると同時に、反動的に價格が下つて来る。さうすると其の値段を支へる為に或は生産制限とか、折角拵えた物を焼棄ててしまはなければいけないとか云ふ非常に大きな矛盾が起つて来る。斯う云ふ矛盾とか障碍とかが積り積つて行きますと、機械に依る生産組織乃至は社会の物理的体系と云ふやうなものを壊してしまふ。單に價格の上

に乗つて居る企業者の利益が中心になつて居るから、真に社会が必要とする物の生産は充分に行はれない。又機械の発達が非常に激しい結果、一番良い機械を持つて居る人だけが利益を得ることにもなつて、何れから見ても極めて非社会的にある。所が本当の社会の目的、又産業の目的と云ふものは、其の結果を平等に享楽すると云ふ所にあるのであつて、生産手段も皆此の目的の為に使はれなければいけない。而も今日のやうな機械の発達力の

非常に速かな時代に於ては、精確な知識と手腕とを持つて居る工業技術家とか科学者と云ふやうな者が産業界を主催して行かなければ、天然のエネルギーを利用して社会が平等に享楽することの出来る組織を旨く運んで行くことは出来ない。是がヴェブレンの思想である。スコツトは其の中にある價格制度の排斥とか、技術家に依る産業の主催とか、それからエネルギーと云ふやうな許からヒントを得て居る。ヒントばかりでなく、之をもつと推廣めて、

具体化して行かうと云ふやうな行動を取つて居る。此のヴエブレンの本が出た直後に、スコツトが何處からか、ワシントンにやつて来てヴエブレンを初め斯う云ふ思想を持つて居る技術家とか学者と云ふものを交通するやうになつた。

スコツトのテクノクラシーはヴエブレンの思想を其の儘受継いだものと見て誤りないが、ヴエブレンの社会主義的、共産主義的な露骨なものは巧みにぼかして、殊更に人類生活全

体の基礎として、エネルギーの單位を持って来て、特に共産主義的なことは言はない。唯此のエネルギー單位と云ふことで以て間接に其の思想を現はして居る。即ち價格制度の社会経済組織をエネルギー單位の組織に置換へて行くと云ふことを強調して居る。結局價格制度延ひては利潤経済が否定されるから、結局資本主義には反対と云ふことになる。併しながらスコットは、テクノクラシーは共産主義にも、社会主義にも、又ファシズムにも反対で

ある。是等の思想は色々過激なことは言つて居るがやはり價格制度は持つて行く。或程共産主義では貨幣、利潤経済を失くしてしまふことを強調して居るが、結局是は形を変へた價格制度をプロレタリアが主催して行くに過ぎない。共産主義と雖も根本的に價格制度から脱却し得ないのであると謂ふ。

そこでエネルギー萬能主義の社会を造り、之を技術家が支配して行くのは、実際アメリカでどんな方法でやるか。エネルギーを單位

とする生産消費の分配をどう云ふ手段でやつて行くかと云ふことに付ては、テクノクラシーは現在までの所何等具体的のことを言つて居ない。テクノクラシーを宣傳するのに二つの根據―と云ふよりは二つの方法があり、第一には現在の價格制度に依る経済制度が既に駄目になつて居る事を理由を挙げて示す。それから第二段としてテクノクラシーでやつて行けば斯う云ふ駄目な訳が総て旨く行くのだと言つて居る。併し此の二つの間をどう移

し換へ、どう處置して行くかと云ふ点ははつきりしたことを言つて居ない。其處に又テクノクラシーの非常な弱点がある。其の結果ある人などは、テクノクラシーは唐人の寝言で実際社会では問題にならないと悪口を言つて居る。而も燎原の火の如く傳播して居るのはやはりさう云ふものが人の耳に這入り易いやうな社会状態になつて居つたからで、一九二九年の後半頃からアメリカは非常な不景氣に襲はれ、フーヴァ大統領あたりが一生懸命で

切抜けようとしたが失敗し、民衆は資本主義の将来に非常な失望を感じて居つた。其所へ此のテクノクラシーが「例へば一週間に二日、而も八時間労働をすれば一週間生活出来、一年に一ケ月位働けば後の十一ケ月は働かないで食つて行ける、と宣伝したので非常に大向に受けた譯である。元来技術家の中には、『技術家と云ふものは、機械を旨く運転して社会全般が需要を満す生産能力を持つて居るのだけれども、企業家が自分の利潤経済の観

念から技術家の最も能率的な行動を阻碍する。故に社会全般が享楽して行く為には技術家がやって行かなければいけない、と云ったやうな思想が割合に多い。アメリカの経済事情が悪くなった所に持って来て、技術家の方は現在の眼から見て多少危険と思はれるやうな思想があり、又一九二九年以来の不景気の為に失業は無限に殖えると云ふ傾向になった。テクノクラシーは此の一般民衆及び失業者とか、技術家の方面等に同感者が多いばかりで

なく傾聴して居る資本家も相当あると謂はれる。そして見ると先づアメリカ全般に亘つて、注目されて居るものだと言へる。

四、機械化と失業問題

テクノクラシーに依れば、現在アメリカの失業者は約千二百万人程あるが、彼等は一九二九年頃は大抵職業を持つて居つたのである、元来産業が余り発達して居ない時代には勿論労働需要が少ないが、産業の発達に伴ひ労働

需要が上って来る。所が産業の発達が或る程度に達してしまうと、今度はもう労働の方は余り需要されなくなって来る。即ち技術的発達の結果機械が人間の代りに働き出すので、産業発達の程度が高まって行く程労働者に対する需要は減少して来る。米國では労働者の雇傭数が一九一八年に最高点に達し、其の後は大体に於て下降の傾向をとり、近年は加速度的に減少して居る。一方生産の方は一九一九年に於て一番高くなって居る。是はどう云

ふことになるかと云ふと、一九一八年以後労働者の数は減って来るけれども、生産高の方は殖えて、一九二九年に於て最高に達して居ると云ふ逆行的な傾向がアメリカで見られる事になる。之を二三の個別的商品に就いて見れば、小麦粉の生産は、一八九九年に三万二千人の労働者が四億七千百万ブッシェルの小麦粉を生産し、一九二九年に於ては二万四千六百人の労働者が五億四千六百ブッシェルの小麦粉を拵へた。労働者の方は一万人程減つ

て居るのに、生産額の方は一億ブッシェル程殖えて居る。鋼鉄の生産は一九〇〇年に一千百万噸生産するのに、延人員六億人が必要であつたが、一九二九年には、五千八百万噸の生産に延人員七億七千万人が需用されて居る。約二十九年間に四千七百万噸の鋼鉄の生産が増加したに拘らず、之に要する延人員は僅に一億七千万だけ殖えたに過ぎない。又銅の生産は、一八七〇年には一万二千五百噸の生産に対して六万人の人間が従事して居つた。一

九一六年には九十一万二千噸に対して八十一万四千人、一九二九年には、九十万六千噸に対して延人員は六十万六千人と云ふ傾向が見える。其他自動車工業、毛織物業、乃至極めて小規模の印刷屋と云ふやうなものに迄逆行的傾向が見えて居ると云ふ統計を示して居る。要するに生産額増加に逆行する労働延人員の激減は皆機械を使用すると云ふことに関係して居る。此傾向は景気良否には全然関係なく景気が悪くなると一層其の傾向が激しくなる。

だけの違ひがある。其の結果現在では假令新しい産業が興るにしても、建設期だけは一時労働者が需要とされるけれども、逆行的傾向が更に強くなつて結局新しい産業が起つたからと云つて労働者需要は極めて微々たる程度に止る。是は結局現在の價格経済組織が然らしめるのであつて、之を防ぐにはどうしてもエネルギー単位にするより外ない。失業問題の解決から言つてもエネルギー単位でやつて行かなければいけないと云ふ。

五、エネルギーに就いて

エネルギーは、物理学上不滅である。地球は太陽の一滴で、現在でも太陽から熱のエネルギー、光線のエネルギー等を受けて、地球上の生活が営まれる。例へば石油とか石炭とかも一つのエネルギーの元であるが、是も太古の動植物が埋蔵されて出来たもので、太陽のエネルギーに支配されて居る。所が太陽のエネルギーは太陽がある限り地球に与へられ

るが、地球に在る石油とか石炭は或る程度まで行くとなくなつてしまふ。是はエネルギーがなくなつたのではないけれども、石炭とか石油とか云ふ形に於けるエネルギーが熱其他の科学的生産力となつて、エネルギーの形を変へて行くのであるから、人間の生活上から云へばエネルギーが消費された結果になる。之を假りたエネルギーの消費と云ふ言葉で現はす。古来人間の社会生活は何かの仕事をする事である。其の仕事を為し得る力は

物理学上のエネルギーで、是は物理的に仕事の單位ロエルグ乃で測定することが出来る。又之を熱エネルギーの單位で言へば、カロリーで測定することが出来る。何れにしても人間のやつて居ることは総てエルグとかカロリーと云ふ物理的單位で以て測定することが出来る。是が重要な論據になる。それで大人一人が一日に八時間働くと、其の労働力は十分ノ一馬力あるのださうで、米國の人口一億二千万人中、三千六百万人が大人と假定すると、

是だけの大人が働いて出し得る力は三百六十万馬力になる。所が現在新式タービンは一台で八時間に三十万馬力の力を出し、而も四六時中休むことがない。結局アメリカには十億馬力あるさうで、是は全世界の大人が出し得る馬力の五十倍に相当する。是から見るとアメリカの大人が持つて居る三百六十万馬力と云ふものは非常に微々たるものに過ぎない。
又別の方面から見ると極く大昔には、機械とか、道具を使はないから仕事をするには人

間が赤手空拳でやるより外なかつたので、さう云ふ時代には、エネルギーの根源は、結局人間が食べる食物から出て来た譯である。之をエネルギーの単位で現はせば、食物から出て来るエネルギーは二千瓩カロリーに相当する。是は二瓩の水の温度を一千度だけ上げると云ふ熱の単位でありますが、兎に角人間だけのエネルギーは二千瓩カロリーである。其後風車とか、水車其他の道具に依つて動力を発生して、斯う云ふエネルギーを食物から来るエ

ネルギーに併用するやうになつたから、一人当り一日に四千瓩カロリーに増えた。所が今日のアメリカは、非常に機械力が発達した外に、石炭とか、石油とか、天然ガス等の形で出て来るエネルギーが激増し、結局十六万瓩カロリーを一人の人間が一日に消費して居るのださうである。是が現在のアメリカのテクノクラシー的生活標準の根據になつて来る。

所が現在のアメリカの社會、経済の基礎は各種の新発見と天然のエネルギーの資源と一

例へば鉄、石油、石炭、又は電力と云つたやうなもの）ウオツチフルネス（Watchfulness）監理即ち前二要素の適当なる監視及び運用の三要素から成立つ。前述の如く機械的発達により天然資源の消費も非常に莫大な量に上つて来たが、全體に行渡らないで非常な不景氣に襲はれ、多数の失業者を出して居る。斯う云ふ不均衡状態は、過去百年間の統計圖表に示すと、エネルギーの増加率は時間の八乗に比例する線即ち急角度の上昇を示し、借金の増

加は時間(t)の四乗、生産量の増加は(t^3)人口の増加は(t^2)即ち時間の経過の長さの二乗に比例して増加して来る。斯う云ふやうにエネルギーが一番多く、負債、生産、人口の順序で殖えるのに對して生産一單位に需要される延人数は(t^4)に比例して減つて來る。丁度借金の殖えるのと同率でそれが逆に減つて来る。斯う云ふ不均衡状態の原因は第一、機械が人間に代つてしまつた事、第二経済機構の監理のやり方が悪い事である。故に其救

済方法は二つある。

第一機械の発達が原因であるから、機械を全廃して凡て人力に依ればよい。さうすれば機械の代りに人間が仕事をするから失業はなくなる。併ながら現在のアメリカは機械が非常な発達を根本的の條件として成立って居るから、今機械を全部叩き壊してしまへばアメリカの人間は即座に生活力を失ふ結果になる。それ位機械と現在のアメリカ社會の結付き方は密接であるから、第一の方法である機械の

全廃は絶対に出来ない。さうすれば結局第二の方法である監理方法を変へて行かねばならぬ。所が現在の経済界は二つの方面から監理されて居るので、即ち一つは生産組織を所有して居る所の企業家の方面、他の一つは実際に生産機関を動かして居る所の人間で即ち技術者が監理して居る。然るに技術者の有って居る科学的監理力は、企業家の価格主義の方面から来る監理の力に依って属て歪められてしまふ。要するに是が現在の悪い原因である。

機械を捨ててしまふことが出来ないならば、結局今度は價格制度を廃してしまつて、エネルギーを基礎として、機械學者か、又は技術家が之を監理して行くと云ふ方に移つて行かなければならない。さうすれば前に述べたやうな、非常に大きなエネルギーと機械の生産力とに依つて、結局人間は一週間に二日間宛一年總計約一ケ月程働けば一年の生活を楽に保つことが出来る。之が失業問題の結論である。

六、價格制度の問題

そこで價格制度乃至は貨幣制度に対してテクノクラシーはどう云ふ態度を執つて行くかと云ふことが問題になつて来る。現在の経済界は総て貨幣が単位になつて居り、價格制度が行はれて居り、利潤が中心になつて居る。所が此の中心を為して居る貨幣が科学者の立場から言ふと非常に當にならないと言ふ。即ち昨日の一弗と今日の一弗の購買力は非常に

違ふ。弗は四六時中動て居る。所がカロリーは絶対に動かないものである。例へば石炭一斤の中に含まれて居るカロリーは石炭の價格に拘らず永代不変のものである。一弗で買ひ得る石炭の量は異なるけれども、一斤の石炭の中に含まれて居るカロリーは何時まで経つても変はるものではない。して見ればカロリー程安定なるものはないと云ふ。之が價格制度に反対する根本の理由になつて居る。それでカロリーは生産とか消費とか云ふものを測定

するのに極めて正確な單位になり得るけれども、若し生産消費を價格の方から統制して行かうと云ふと、貨幣が非常に不安定なものであるから、中々調節が巧く行く筈がない。然るに現在は此の貨幣的利益の為にのみ生産消費が動かされて居るのであつて、出来ない者がやらうとして居る。其處に非常な缺陥がある。現在の経済思想は生産に対して貨物が實際に消費されるかと云ふことではなくて、唯貨物が賣れるか賣れないかと云ふことだけ

が中心になつて居る。是は本当の生産の意味から言ふと非常に間違つたことである、と云ふやうな思想を此のテクノクラシーでは述べて居る。

さうして現在生産の原動力は利益を目的とした借金で賄はれて居る。例へば債券とか、株式とか、其他長期短期の借金で賄はれて居る。テクノクラシーでは、例へば或る會社を興すのに株式を募集すれば其の払込は借金だ。又吾々が一円紙幣とか五円紙幣とか云ふ札を

特つて居る。是は一種の借金だと云ふ立場を執つて居る。要するに債券とか株式とか、其他色々の借金で以て企業の原動力が養はれて居るので、斯う云ふ借金が現在のアメリカでは二千一百八十億弗あると謂ふ。所が機械技術の発達は常に新機械を以て、従来のものを時代後れにする。仕方がないから新機械に買換へなければいけないことになつて、前の借金がすつかり償はれてしまはない内に又新しい借金が殖えて行く。此の百年来非常に

借金が殖えて居ると云ふのは此事で、新しい技術の発達に追付く為に借金が積り、而も其の一方に於て借金に対する利子、企業に対する利益配当等が皆借金の中に加はつて来る。斯う云ふ風に借金が非常に殖えて来ると、結局生産費を切下げて行かなければならないが、生産費を切下方法としては大量生産、或る場合には機械万能の自動的生産方法と云ふやうなものが採用されるが、其の為に又借金が殖えて来る。企業者は労働者を休ませる為

に機械を採用するのではなく、原價を切下げる爲に機械を採用する。それであるから借金が殖えて行く一方、勞働者の失業も益々殖えて来る。斯う云ふ方法に依り、一部の企業家例へばアメリカのフォードと云つたやうな人は相当の利益を擧げ得るが、フォードが一年に儲けるだけのものを一年に使ふと云ふことは出来ないから、何等かの形式で再び投資される。再び是が借金に加はつて来る。斯う云ふことが積り積つて商品の山が出来ると同時

に借金の山が出来、失業者の群が非常に大きくなる。結局價格制度の中には三つの矛盾がある。

第一、元来消費者の購買力の根源は労働延人數にある。所が労働の延人數減少傾向があるから、要するに購買力の減少と云ふ結果になる。第二、價格制度と云ふものは、労働を全体に分配しないで、労働者の雇傭數を減少させる。第三、機械に対する投資が非常に増加した結果、機械の時代後れに依る損失の程

度が非常に高くなって来る。是は労銀の切下とか、労働の減少と云ふやうなことを生じて来る。斯う云ふ重大な矛盾が含まれて居るが故に、価格制度はどうしても捨てなければいけない。處が民主党とか共和党とか、ファシストとか又社会主義者も共産主義者も、何れも此の矛盾を完全に解くことが出来ない。彼等の言ふ所は外形は異って居るけれども、兎に角プライス、システムの上に立つのであるから、結局テクノクラシーの眼から見れば根

本的に社会の改良をやり得ないものである。テクノクラートから言へば、プライス、システムが悪いのであるから、プライス、システムにこびりついて居るあらゆる思想は何の役にも立たないのであって、結局テクノクラシーに依るの外はない。テクノクラシーになって来れば北はアラスカから南はパナマに至る非常に廣大な地域の自然的エネルギー資源の上に立ってい、其の非常に豊富な所から非常に旨い汁を吸ふのである。結局アメリカ人の生

生活程度は一九二九年の標準で計れば、一人頭二萬弗位の収入がある程度の楽な生活が出来ると云ふ。

七、批判一束

テクノクラシーは、要するにそれだけのことしか言はない、併し一度唱へられて以来、方々から色々な反対や賛成が出て来た。新聞其他極く狭い範囲で、二三題目だけを紹介すれば、ノーマン・トーマス（アメリカに於ける

社会主義者―は社会主義の敵は資本主義社会であつて、プライス・システムではない。テクノクラシーはプライス・システムに反対して居るから、此点で社会主義とテクノクラシーとは一致しない。併しテクノクラシーの社会改造の根本思想は社会主義者としては大賛成であるから、テクノクラツトを社会主義が指導して行けば宜いと云ふ。

アメリカでは相当な経済学者の一人であると言はれるウイリアム・トルファント・フオ

スターは、テクノクラシーは唯人騒がせの案山子見たやうなものであつて、中実は空つぽだと云ふ。又実際家の方面からは、テクノクラシーでは機械の発達の極致即ちオートマテイツクな機械生産組織の管理を理想として居るけれども、自動車業者から言へば、餘り強度な自動生産組織は旨く行かない。結局テクノクラシーを自動車生産の方に当嵌めれば失敗であると実際生産上の立場から反対して居る。又アメリカン、エンヂニヤリングヽカウ

ンヱルと謂ふ技術家の團体でも、テクノクラシーは中実は空っぽで実際役に立たないと云つて反対し、又マルコム・カイヤーと云ふタナトマス大学の経済教授は、テクノクラシーは要するに古い着物の上に新しい外套を掛けた程度のものに過ぎないと云つて居る。チエイス自身も此のテクノクラシーの社会改造意見に対しては全然同感であるが次の諸点で反対して居る

一、價格制度は国家集産主義と通貨管理によ

つて、尚維持出来る。

二、自動生産組織は、テクノクラフトが謂ふ程全米に行はれて居ない。

三、生産の発達は、更に新しい仕事を作る。

四、醫師、学者、鉄道従業員等の仕事は、エネルギーで測定出来ない。

五、消費を統制する必要はあるが、嗜好等をテクノクラフトの謂ふ様に、極度に型にはめる事は出来ない。

故にテクノクラシーの根本的の思想には賛成

であるけれども、いきなりエネルギー経済を持つて来ると云ふやうなことは出来ないと批評をして居る。其他非常に偉い政治家等の方面は先づ默殺の形ではないかと思ふが、一つ面白いのはイタリーのムッソリニー首相で、是はやはりテクノクラシーには賛成して居ない。即ちアメリカのやうな社會では経済統制と云ふことは確に必要であるけれども世の中で一番大切なものは人間なのであつて、機械等ではない。いくら統制経済が必要であるから

と云つて、機械萬能のテクノクラシーを持つて来ても駄目である。其の統制の形式にしても、軍隊的に一番頂上に偉い人が一人居て、統制して行くと云ふのが宜いのであつて、唯エンヂニヤとかテクニシアンが寄り集つて統制して行くのでは駄目である。要するにアメリカでは統制経済は必要であるけれども、テクノクラシーの統制経済では駄目である、と云ふ批評が新聞に出て居る。

大体斯う云ふやうなものがテクノクラシー

では現在の制度が悪い。テクノクラシーでやつて行けばさう云ふ悪い所がなくなつて行くのだと言つて居るが、其の間の間隙を結付ける具体的理論と云ふものはまだ出て居ない。それで日本で紹介して居る人も、テクノクラシーには結論がないと言つて居るが、テクノクラシーの結論は要するに統制経済をやつて行くので、それを科学的に、又機械的に技術者の側が専制的に統制して行かうと云ふのであるから、之を或る方面から見れば共産

主義的な所に行くと云ふことも言へるし、又一方から言ふと、ファッシズム的な方向に行くと云ふことも言へる。兎に角テクノクラシーの結論は出て居る。けれども、偖て其の結論をどう云ふ風に実行するかと云ふことに付ては余り述べて居ない。それで此のテクノクラシーは夢だと云ふやうな反対も出て来る譯である。

ー了ー

14
図書館
庫
群馬県立図書館
0707114-5